KUMAMOTO KOUSEN

熊本高専だより

2015 Spring
NO. 17

革新する技術、創造する未来～夢へ翔る熊本高専～

Special Topic
特集 新高専第1期生の卒業に向けて

CONTENTS

01 巻頭のことば
03 特集 新高専第1期生の卒業に向けて
11 進路速報
15 退任教職員からのメッセージ
18 学生たちから
20 キャンパスだより
21 保健室だより
22 News & Topics

卒業生・修了生にむけて

校長　長谷川　勉

卒業する皆さん、おめでとうございます。

苦しいこともあったかと思いますが、くじけることなく初心を貫いて、高専の課程を修了した皆さんに敬意を表します。

5年前の入学時の自分自身と比べて、肉体的にも精神的にも大きく成長できたことを実感していることでしょう。専攻科を修了する人達は、この2年間にさらに深い知識を獲得し、専門能力を高めることができたことと思います。皆さんの人生はまさにこれからです。若いのだから、失敗をおそれず、がむしゃらに前に進んでほしいと思います。

さて、この世界は、あるいは社会環境と言い換えてもいいのですが、常に変化しています。

（1）　技術は進化する。

皆さんが専門とするモノづくりの分野に限定しても、技術は進化しています。ちょっと前にはなかった言葉ですが、新規の生産概念としての「インダストリー　4．0」やIOT（Internet of Things）などが、世界的に注目されています。意味がわからなければ調べてみてください。新しい技術が定着普及し、あるいはすたれていくのを待つことなく、次の新技術が現れてきます。

（2）社会・経済情勢も大きく変化する。

豊富な労働人口と低賃金ゆえに世界の工場となった新興国も、その発展とともに賃金が上昇し、巨大な消費市場に変わっていきます。この1，2年の円安で代表される為替変動も、先進国と新興国によらず大きな変化を引き起こします。日本の企業には生産を一部国内に戻す動きもわずかながら出てきています。世界への輸出基地として海外に巨大な生産工場を建設し稼働させてきたやり方から、各国に分散された工場で、その国で消費する分を生産するようなやり方にする変化もあります。さらにシェール革命と呼ばれる石油生産の大きな変化は、産油国／消費国の地図を塗り替え、富の流れも変え、国際政治にも経済にも影響を及ぼします。

これらは例に過ぎませんが、このような変化の中で生き、成長するために、学校を出てからも継続して勉強することが必要です。教科書だけが勉強の基盤ではありません。社会をそして世界をよく見、そこから学び取ることがもっと大事になります。高専では十分時間をかけられなかった歴史、地理、政治経済などにも目をむけ、興味が湧いたところから自分のペースで学ぶことにより、視野を広げ人生を豊かにしてほしいと思います。

長い人生の間には色々なことが起こります。チャンスもあればピンチもある。チャンスをつかみ、ピンチに耐え抜いてもらいたいのですが、単純なことではありません。チャンスなのにそれに気がつかない人もいます。チャンスを活かす準備ができておらず、みすみす見逃すこともあるかもしれない。自分が何をしたいのかを明確にすることが、チャンスに気づき、それを掴むうえで最も大事です。希望が明確であれば、それに向けた準備ができます。成長することができます。それがチャンスを呼び寄せることにもつながります。例えば、職場の上司は、困難ではあるが大きな利益をもたらす仕事を抱えたとき、それをやり遂げてくれそうな部下を探します。準備ができ、成長できている人にチャンスが与えられることになります。チャンスに恐れることなく挑戦する気持ちも大事です。

1つでよいから、周りの誰にも負けない得意分野を持つことを心がけてください。うまくいかないことが続いても、ネガティブになって落ち込まず、自分をポジティブに見ることができるでしょう。ピンチに耐える力につながります。焦らず、腐らず、天が与えてくれた試練だと考え、充電の良い機会とすればよいのです。支えてくれる仲間や家族がいることは大きな力になります。ピンチを乗り越えることによって、成長し強い心をもつことができるとともに、自らを省みて相手の立場を想像することができるようになることでしょう。

自立した社会人として、さらに成長し、たくましく生き抜いて、活躍してくれることを願っています。

「はばたけ」平成26年度　卒業生・修了生

熊本キャンパス　奨学後援会　会長　佐藤　美千代

晴れて熊本高専熊本キャンパスを御卒業、修了される皆さん、長い間あたたかく見守ってこられました保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

5年前、少し大きめの制服を身につけ、可愛かった子ども達が、身体面でも精神面でも成長し、立派な大人になったことが頼もしく、うれしい限りです。

卒業・修了される皆さん、熊本高専熊本キャンパスで過ごした時間は如何でしたか。

自由な校風の中、勉強・部活動・行事（電波祭等）と、楽しかったこと、苦しかったこと、いろいろあったでしょう。

その気持ちをしっかり心に刻み込み新しくスタートしてください。

4月から進学・就職とそれぞれのステージに進み、それぞれの人生を送ることになりますが、高専で学んだこと、培った自信は皆さんの大切な宝物です。

高専で出会った先生、友達も大切にしてください。

また、これから始まる人生でも、いろいろな出会いがあります。

出会いこそ人のすべてです。

人から学ぶこと、人から助けられること、人から傷つけられること、沢山の出会いが皆さんを成長させてくれます。

これからの道のりがもっともっと充実したものになるように、皆さんの未来が光輝くものであるように心から祈っております。

「社会へ出ていく皆さんへ」

いよいよ怒涛逆巻く社会へと巣立っていく日となりました。目の前に広がる社会は、これまでの温床とも言うべき学校と異なり、まさに荒れ狂う極寒の海そのものです。その激しい荒波に翻弄されることなく、自分という柱を堅持し前進してください。そして人生に付き物の後悔をおそれることなく挑戦の気を強く持ってつき進んでください。

最後になりましたが、これまで保護者の皆様には奨学後援会の活動にご理解ご協力いただきありがとうございました。これからも奨学後援会活動をよりよいものとする為に改善して参りますので今後ともご協力よろしくお願いいたします。

常に向上心を持ってさらなる飛躍を

八代キャンパス　後援会　会長　小西　涼司

ご卒業おめでとうございます。新たなる門出を心より祝福します。

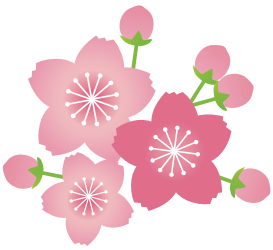
現在の日本はアベノミクスで、これまで失われた長期の不振から回復しつつあり、社会の至る所で活気が戻ってきました。しかし現在の日本には高齢化、エネルギー、環境問題をはじめとする多くの課題を抱えて困難な道のりが待ち受けています。日本が国際社会の中で繁栄し現在の地位を維持していくためには、様々な分野で技術の発展と技術革新を生み出して世界をリードしていかなければなりません。

多くの企業はグローバル化が進む中で、イノベーションの視点を持って働く若者に期待を寄せています。皆さんには日本の技術を支える人材として、変化の早い時代に勉強を継続し、常に最新の技術を身に付けて向上し続ける社会人、エンジニアであってほしいと思います。

皆さんが会社や社会で働く時、学生時代には経験したことのない困難に直面することがあると思いますが、そのような時、信頼できる良き友や先輩がいれば何よりの力になってもらえます。日々の生活においては、自らも周りの人や社会に目を向け、やさしい気持ちで接することを忘れないでください。身近な人はもとより多くの人との交流ほど精神的な豊かさや安らぎが感じられるものはありません。自分の専門分野を超えて多くの人々と交流し、多様な意見に耳を傾けて自らを磨いてください。

卒業生、修了生の皆さんの今後の活躍と健康に留意され充実した人生を送られることを心からお祈りします。終わりに20世紀最大の物理学者、現代物理学の父とも称されるアインシュタインの言葉を贈ります。

「人の価値とは、その人が得たものではなくその人が与えたもので測られる」



特集：新高専第1期生の卒業に向けて　17号特別企画

「座談会:新高専の第1期卒業を迎えて」
―1期生としての5年間―

日時：2014年12月19日(金)PM2時～3時30
場所：熊本キャンパス　大会議室
参加者：長谷川校長、下塩副校長(熊本C)、齊藤副校長(八代C)、
熊本C学生代表：情報通信エレクトロニクス工学科(TE)　草野欽太君、制御情報システム工学科(CI)　森山拓哉君、人間情報システム工学科(HI)　中神楓子さん
八代C学生代表：機械知能システム工学科(MI)　木村匠君、建築社会デザイン工学科(AC)　磯﨑将臣君、生物化学システム工学科(BC)　梶原佳太君
司会：永田／小田(総務主事)
※文中敬称略

永田：いよいよ3月で新しい高専として初めての卒業となります。皆さんが新高専に入ってきて、これまでの5年間でのいろいろな経験や感想を聞かせていただけたらと思い、高専だよりでの座談会を企画しました。よろしくお願いします。
初めに、**5年前に八代高専と熊本電波高専が、高度化・再編で一緒になりましたが、その時の新しい高専を立ち上げるにあたっての目的**について、簡単な説明を校長先生、副校長先生からお願い致します。

長谷川：熊本高専は、平成21年の秋に新しい高専としてスタートしたわけですけども、全国の4つの地域で、それぞれ2つの高専が高度化・再編という形で、1つの高専になりました。当初はスーパ高専と呼ばれてました。大きな狙いとしては、研究と教育を高度化したいということです。高度化・再編にあたっては、それぞれのキャンパスの本科の学科を一つずつ合計2クラス減らして、一方その分、専攻科の定員を増やして、研究面、教育面を高度化する、教員はそのまま同じ数の教員が残りましたので、教育や研究面でそれだけ時間を学生の皆さんにいろいろかけられることになります。それから、同時にセンターを3つ作り、センターを使って教育と研究の高度化を図るということも大きな狙いでした。グローバルに活躍できる、そして実践的創造的な技術者を育成するというのが熊本高専の目的です。
齊藤：元々、熊本電波高専の方は電波という名前がつくように、情報通信系が主体の高専と、それから八代の方は融合・複合系の学科ということで、両方のそれまで持っていた特色をそのまま活かしながら高度化再編しようということで今のような形になっています。

永田：それでは、学生の皆さんから、**どういうイメージで新しい高専を選択して入学したのか、また、入学時に皆さんが高専に入ってやりたかったことや当時の目標**についてお願いします。
木村：僕は、正直特に何も考えずに八代を選んだんですけど、機械も情報もいっしょに学べるという、複合学科の最大の特徴に一番惹かれて八代に入ろうと思いました。実際に機械系の授業もあって、3年までは情報系のC言語とかの授業がありました。僕は、部活動で情報システム研究部というプログラミングをやる部活に入って、低学年の頃は情報系をやっていました。4、5年になってからは卒業研究で機械系の研究室に入って、今のところは情報も機械も両方やってるという形になってます。ある意味ちょっと複合学科の両方生かしきったところを学習できたと思います。
磯﨑：僕も特に何も考えずにAC科に入りました。まず、根本的に僕はAC科に入りたくはなかったです。僕は、第三志望でACに回ってきたんであまり期待はしてなかったんですけど、卒業間近ということで実際5年間を振り返ってみるとAC科でよかったかなと、自分には合っていたのかなというふうには思ってます。

森山：私は、入学前はやはりお二方と同じようにそんなに意識せずに入学したんですけど、ただ一つ工学的なことがやりたいなということがあったので、工学系を学べてしかも家から近かったということで選びました。実際に入学してみて自分の知らないことを、他の方は知ってるっていうのがよくあって、ああ、こんなにみんな意識高いんだなあっていう感じで、それに引っ張られるように自分も知識を身に付けていくことが出来たので、この学校を選んでよかったな、と今は思っています。
中神：私は、情報系の勉強をしたいと思って、それで熊本キャンパスの方を選んで、オープンキャンパスでプログラミングをちょっと体験したときに興味を持って、人間情報を志望しました。私も森山君と同じで家が近いっていうのも一つ理由があって、専門的なことも早くから学べるということで選びました。それから、福祉系の勉強をしたいなと少し思っていました。
梶原：自分は新しい高専とは一切意識してなくて、単純に生物系の学科に行きたいなと思っていて、探したら他に無くて、結局、八代キャンパスに行ったんですけど、いまだに、でも熊本高専と八代高専を区別している人はあまりいないみたいで、どこに行っても八代高専、八代高専と言われて、そこはちょっと何かなあって思うところはあります。
草野：僕がこの学校を決めたのは中1の時です。3つ上に兄がいて、僕が中1の時高1で、高校受験を

「座談会:新高専の第1期卒業を迎えて」 —1期生としての5年間—

終わったのに高1の段階でもう大学受験を考えて、母親からお前にはそんな根気良く頑張ることは無理だから大学受験しなくていいとこに行けって、高専にしとけよみたいな感じで言われました。僕もそう思ったんで高専にしようと思って、どの科にしようかと思って考えてたら、父親にこれから高齢化社会で福祉が重要になるからみたいな感じで言われました。それで、推薦でHIを志望して受けたんですけど、HIは落ちてTEに滑り込めたんで、もう受験終わるならTEでいいかなって、決めました。転科出来るって聞いてたんで、嫌だと思えば転科すればいいしと思って。入ったらなかなか合っていて、流され流されながら来たんですけど、結構高専というのが自分に合ってたのかなあって思います。今5年通いましたけども、あと2年専攻科で通いますし、なんかの縁で流されて来たんじゃないかなあっては感じました。

永田：実際に**入学してからの5年間で、新しい高専を意識したところ**は、何かありましたか？

森山：制服が変わったくらいですかね。

永田：制服の統一についてはその最初の座談会の時にぜひ統一しましょうと話があって、それで進んで行ったんですね。

森山：かっこいいなとは思います。

中神：実験の内容が低学年の頃はプログラミングとかの方が主だったんですけど、3年以降からヒューマン系の実験が増えてきて生態計測などを行ったり、そこが人間情報なのかなと思いました。

梶原：5年間で実感したことは、自分の1つ上に情報(電子工学)科が前あって、その学科の先輩と結構仲良かったんですけど、自分たちが3年の時にやってたプログラミングのテストとか授業とかですね、全く同じ内容を4年生のその先輩がやられてたんですよ。それはちょっと難しいし、何だこれはということはありましたね。

長谷川：大変だった？

梶原：はい、大変でした。ここは何ですかねって聞いたら、ああ俺がそれ今やってる、みたいな。

永田：これは、教育の高度化ということですね。

木村：そうですね。前の学科(M科)のことはあまり詳しくはわからないですけど、話を聞く限りでは5年にやった科目を4年でやったりとか、そういうのがいくつかあったみたいです。あとは5年になって選択科目が急に増えましたが、前の学科だったら機械系がおもだった、機械系の科目で2つ分かれるようなことが多かったと思いましたが、今はその気になればその情報系とか電子回路系とか、そっちの部分にも特化できるようになってて、そこがなんか変わったところなのかなあと思いました。

長谷川：世の中の技術がどんどん進んでいるので、昔よりやっぱり新しいことまで勉強の範囲に入っているわけですよね。一方、基礎の基礎は昔と変わらないからそれだけ広い範囲のことをやらなくちゃいけない。でも、いっぺんに全部やるのはもちろん難しいからそこはどう選択するかということだろうと思いますけどね。そういう意味で昔の人よりは早くから高度なことを勉強してるということになりますよね。

磯崎：僕は、建築社会なんですけど、それでもやっぱり共通のC言語であったり、情報系の勉強をするっていうのを知らなかったのでかなり苦労しました。

齊藤：高度化再編する時にICT系や電気の制御系など、どの専門分野にいっても将来関わりが出てくるところだということで基盤的な科目として共通コアの部分にそういうICT系の科目を配置するようにしました。今の時点で役立つかというと、まだ答えは出ないのかもしれません。社会へ出てしばらくして、ああ、あのこと勉強しといてよかったなということが、あとから出てくるんじゃないかと期待しています。

永田：**5年間で成長できたところ、どういうことが身についたのか、どういうことが勉強になったか、などについてお願いします。**

森山：入学した頃はただ単純に工学的なことを学んで技術者になりたいなっていう大きな目標しかなかったんですけど、実際入ってみて、なんだこれみたいな、全然それまで勉強してこなかったのがありました。私の学科でしたら、制御情報システム工学ということで、制御理論だったりとか、プログラミング、電気回路なんかも学んでいく中で、自分がわからないところを、他の人は結構、親身になって教えてくれました。そういうのは中学校ではあまりなかったので、仲間意識みたいなのが芽生えて、実際に5年間過ごしてみて、今は得意な科目なんかも専門科目の中にあったりするので、そういう意味ではすごい成長できたなって感じますね。

木村：部活やってて、3年から部長をやり始めて組織の運営というか、マネジメントというか、そういったところをやる機会がありました。それでちょっと頑張ってた時期があったんですけども、当時やる気がない人たちも結構多くて、そこで結構いろいろ苦労をした部分がありますね。僕自身も大会に行かせるためにいろいろやったりしたんですけど、やり方を間違えて、失敗したこともありました。結果的には今はすごいやる気っていうか結構活性化はしてき

たのですが、リーダーとしての組織作りの大変さを経験したところが一番かなと思います。

長谷川：運営諮問会議といって外部のいろんな方に学校の状況をお話しして、いろいろご意見伺う機会があるんですけども、去年の会議では、特に技術者でもそういう経営とかマネジメントとか、社会人として必要なのを教育してほしいというようなご意見も多くの方からありました。高専によっては、最近は、本当に経営学みたいなものを少し入れようというようなことを考えています。だから、もちろん専門の技術として狭くてすごいとんがってるってものは重要なんだけども、それだけではすまなくなって、社会の中でしっかりやってもらうためにそういうマネジメントの経験というのはきっとすごく生きるだろうと思うし、そういうことは世の中では必要とされているようですね。

梶原：自分、通学生なんですけど。何というか、1年生の時から、普通の高校だったら2コ上、3コぐらいまでしか関わりないですけど、高専だったらやっぱり二十歳(はたち)とか、結構上の人たちと関わることが多いです。たぶんそこで関わっていくうちに、こんな感じになりたいっていうイメージが自分についたんじゃないですかね。自然とそうなれるように成長していったのかなとは思いますけど。部活動とかでも専攻科まで入れたら5才から7才上の人までいるんで、大人の人と接する機会が多いっていうのはありますね。

永田：**新高専の1期生として、苦労したことや、楽しかったこと、良かったこと**についてはどうでしょうか？

梶原：苦労したことと言ったらですね、今、情報の科目を5年生でしてるんですけど、去年までの情報電子工学科で2年間かけて教えてたことが半期間分になったらしくて、要所、要所とってしてるからもう自分たちからしたらわけがわかんないですよね。ここ何？えっ？て説明したのっていうのがいっぱいあって、それはすごい苦労してますね。

木村：それに近い話で、5年の専門科目でも、今まで1年間いて教えてたのを4分の1ぐらい縮められたみたいな話されて。どうしようか、みたいな困ってるって話を聞いたことがあります。

長谷川：一方で、これからは教えられるんじゃなくて自分で学ぶんだというような方向に学校を変えようとしています。これは高専だけじゃないですけど、大学でもどこでも。つまり、全てを教えきることはもう出来なくなってるんですね。それだけ沢山の進歩したことがいっぱいあるから。今までだったら全部教えられたけど、もう今、どんどん進歩しているので、やはり自分で勉強して欲しいし、社会に出れば否応なく自分で勉強することになると思うんですよね。学校とは違って自分でわかんないから教えてくださいって、教えてくれる人もいるけれども基本は自分でやってしまわないといけない。だから、よく解釈すればね、そういうことを期待して今、そういう授業をしているのかもしれないんですけど。

齊藤：あの、言い訳するようであれだけど新しい学校になって新しい科目が入ってきたりとか、前2単位でやってた科目を1単位にしたりとか、そういうことに教員も取り組んでいくわけですよね。そうすると、1年目から計画通りに、こっちの思い通りにうまくいくかっていうと、なかなかうまくいかないところがあったりして、たぶん第1期生の君たちにとってみると、まだ消化しきれてない授業を受けたことが多いんだろうなっていうのはちょっと感じます。私たちも頑張って早くその授業をいいものにしていこうということでみんな努力はしてると思うんですけど。最初の科目とかいうのが結構、そういう意味じゃ多かったのかなっていう気はします。

森山：良かったのはやっぱり校舎が新しくなってきたことです。最初、この1号棟だけすごい綺麗で、ああっすごい綺麗、いいなあって思って5号棟に行ったら結構古くて、それが最近すごい綺麗になり始めたので良かったなと思いますね。

永田：今は、どこで卒研してるの？

森山：卒研はまだ古いところでやってるんですよ。たまにその新しい設備使ってやったりするんで楽しくやらせてもらってます。

永田：最後になりましたが校長先生、副校長先生から**新高専第1期生に期待する言葉**をお願いします。

長谷川：新しい学科の卒業生として出て行くことになるわけですけど、そうすると、就職先なんかで熊本高専にはこういう学科があるんだと、そこから来た卒業生で、彼はそこから来たんだっていうことがわかるわけですよね。ですから、是非頑張ってほしいのと、それによって後輩がどんどん(その企業に)行くように、ある意味で、最初の人のイメージが大事なんですよね。会社にしても、大学に進学するにしてもですね。ですから、期待は本当に大きいですから是非頑張ってください。

齊藤：私も一緒ですけど、入ってくる前から、期待して、君たちに良い教育をしなくちゃということで頑張ってきたつもりなんですけど、さっきから話聞いてるとやっぱり苦労をかけたんだなあっていうのをひしひしと感じました。ちょっと大変だったかもしれないですけど、今まで苦労した分もきっと何かの面では生きる部分が出てくると思うんで、そういっ

「座談会:新高専の第1期卒業を迎えて」 ―1期生としての5年間―

たつもりでまた頑張ってもらえたらと思います。君たち自身はあんまり1期生とか、新高専の学生という意識では入ってきてなかったっていう話もあったけど、やっぱり社会から見ると君たちは新しい熊本高専の1期生という目で見られることになると思うので、社会に出たら少しそういう気持ちも持って頑張ってもらいたいと思います。

下塩：ずっと今、話を聞いていて、やっぱり5年間経ってそれぞれすごいみんな成長しているなという気がしましたね。いろんな他の人に対しても気遣いしながら話したりとか、そういうのが出来るようになっているなと思いました。我々も新しい学校になって、皆さんちょっと気がついてないところもあるかもしれませんが、熊本キャンパスの場合は、専門科目は、非常勤ではなく全部常勤の先生でやれるようになったということですね。そういった形で、建物も良くなったし、教える方の環境も良くなっていると思うので、そういった中で、我々の方の準備不足もあっていろいろ迷惑かけたところもあったかなと思いますけど。私は高専、というのはですねたぶん、日本の今の教育システムの中で残された一番いいシステムじゃないかなと思うんですね。だから、自信を持って送り出せると思いますので今後も是非頑張ってください。

永田：学生の皆さんのそれぞれ**今後の抱負と、後輩に伝えておきたいこと**があったらお願いします。

磯崎：僕は、来年の4月から社会に出て社会人になるので、学生気分ではなくてしっかりとした一人の大人として生きていけたらなと思っています。高専で学んだ技術を活かして仕事が出来たらなと思っています。後輩へは、結構ＡＣ科は先生たちが優しいので、自由に楽しく、良い学生生活を送ってください。

森山：私も来年の4月からは社会人としてやっていかなきゃいけないので、高専で学んだことというのは、数学とか専門科目もあったんですけど、他の人間関係だったりとか、そういうところでも結構学べたので、そういうのを活かしてやっぱり頑張って行きたいなと思います。後輩に向けては、ＣＩ科はＡＣ科と違って先生がすごい厳しいので、そういう面でもすごい鍛えてくれるので、ありがたいと思いながら過ごしてくれればいいなと思います。

木村：僕は、八代の方の専攻科に進むんですが、本科で学んだことをベースにもうちょっと研究を頑張って行こうかなと思ってます。あと英語をすごく押されたのでちょっとやってみようかなと思います。後輩には、一言でいうと堕落するなよと言いたいですね。学校生活にはちょっと誘惑が多い部分もあるので、そこだけには負けないように頑張って行ってほしいと思います。

草野：僕は、専攻科に行って、予定では大学院まで行って就職しようかなと考えてるんで、先生方の話し聞くかぎりじゃ大学院からの専攻科生の評価は高いって聞いてるので、その評価に見合うような人間に、これからなれたらなと考えています。後輩にですが、先生から聞くと、今の4年はすごいとか、今の3年はすごいとか、なんだか今の5年に言う必要はないんじゃないかなと、そういう風に言われるんで、大丈夫、このままで頑張ってもらえればいいと思ってます。

梶原：自分も来年の4月から就職することになるんですけど、高専で学んだことでいろいろ取れる資格が結構学べるみたいなんで、自分でいろいろな資格をとってキャリアアップして行けたらなと思っています。後輩に向けて一言っていうんだったら、自分たちの学科は先生たちがすごい厳しいんで、まあ、頑張ってくださいと一言いいたいです。

中神：私は、来年から専攻科に進学するんですが、その後の予定としては就職を希望していて、専攻科の間は、今までの知識を活かしながら、また新しい知識も増やしたいです。学会発表とかも通して、発表を自信をもって出来るようになりたいなと思っています。後輩には、やるべきことをきちんとこなして、楽しく過ごして欲しいと思います。

永田：はい。ではちょうど時間になりましたのでこれで終わりたいと思います。八代高専と熊本電波高専それぞれ伝統のある高専だったと思うので、これからもその伝統を引き継ぎながら新しい伝統を皆さんが社会に出て作っていただきたいと思っています。教職員もそういう新しい伝統に見合うように学生を教育して行きたいと思っています。今日はありがとうございました。

座談会参加メンバー：
下段左から：梶原君、木村君、磯崎君、長谷川校長、中神さん、森山君、草野君
上段左から：小田、齊藤副校長、下塩副校長、永田

※座談会は１時間半程度で実施し、本稿はスペースの関係で、その４分の１程度を一部要約して掲載しています。座談会全体については、本校 Web サイトをご覧ください。

卒業生に贈る言葉

情報通信エレクトロニクス工学科5年担任　角田　功

情報通信エレクトロニクス工学科卒業生の皆様、保護者の皆様、ご卒業、誠におめでとうございます。

いつも言葉で伝えていることを文章に起こし、贈る言葉と致します。

皆さんは、平成二十二年に入学しこの五年間、様々な難題を乗り越え、無事卒業との成果をあげることができました。まずこの成果は、自分自身の力だけではない、ということをもう一度再認識して下さい。ご家族、友人、自分の周りの方々への感謝を忘れないこと。この感謝の気持ちが今後の全ての礎となります。

卒業後は、各自、就職・進学、様々な道を進んで行きます。仕事、研究等に携われば、早く成果を出したいと思うでしょう。当然です。ただ、慌ててはいけません。早々に成果が出た時こそ、少なくとも三十歳までは地固め、だと自分自身を戒め、基礎、基本を繰り返し、じっくりと実力をつけて貰いたいと思います。始めは他人の真似でいいじゃない。真似をする、ということは何か動こうとしている、ということ。何が悪い。動かねば何も始まらない。動けば何か生み出せる可能性が出てくる。動き続ける、この一日一日の積み重ねで漸く応用が利く。独創性ある、新しい面白い仕事ができる。

皆さんは未だ何も成していません。未だ二十歳。これからです。自分自身で道を切り拓いて下さい。基礎、基本の期間を越え組織で個性を出せるように、日々精進を欠かさぬこと。私も君たちには負けません。今後の大きな飛躍を祈念致します。

卒業おめでとう

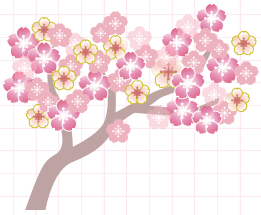
制御情報システム工学科5年担任　卜　楠

制御情報システム工学科第1期生の皆さん、ならびに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

5年前に皆さんが熊本高専に入学すると同時に私もこちらに就任しましたので、皆さんの学級が初めての担任でした。3年間担任を務めることができて今は正直ホッとしています。毎日皆さんと接する中で、学生一人一人の成長を身近に感じとり、その喜びを一緒に感じることができました。

これまでの高専生活はつらいことや厳しいことが多かったと思います。その間、家族からの心暖かい支援を受け、同級生と助け合い、そして自身の努力もあり、無事に卒業を迎えることができたのだと思います。これから企業に入る人、専攻科や大学に進学する人、それぞれ異なる道に進むことになりますが、いろいろな困難が待ち受けていると思います。この5年間で、皆さんが熊本高専で積み重ねた努力と経験は、将来きっと何らかの形で実を結ぶと私は確信しています。4月から始まる新しい環境で、何事に対しても自信を持ってしっかりと人生を歩んでください。

最後に、卒業生の皆さんの今後のご活躍を心から期待します。この度は本当にご卒業おめでとうございます。



チューリップの球根

人間情報システム工学科5年担任　島川　学

昨年10月、チューリップの球根を植えました。私の研究室は日当りの良い3号棟1階の南側にあります。その前に小さな花壇を作り、ビオラやナデシコの苗と一緒にチューリップの球根を植えました。しかしチューリップは春の花ですから、すぐには芽がでません。花が咲くのは3月頃です。

「このチューリップの花が咲く頃に5年生達は卒業する。」そんなことを考えながら球根を植えました。

チューリップの球根は寒い冬の時期を過ごす必要があります。でも、球根はただじっと寒さに耐えるだけではなく、土の中の水分や養分を吸収するために根を伸ばしているのです。この時期にしっかりと根を張ることのできた球根が春に立派な花を咲かせることができるのです。また、球根がしっかりとした根を張るためには環境も大切です。球根を植える前に深くまでしっかりと土を掘り起こし、球根の近くに肥料を少し添えておきます。

チューリップの育つ様子が卒業する皆さんの姿と重なって見えます。高専での5年間は球根が土の中に根をしっかり張り巡らす時期です。卒業は土の中から芽を出したところでしょうか。私は教員の一人として、また人生の先輩として、皆さんが成長するための環境づくりに役立てたのか自問するとともに、今はただ、卒業生の皆さんが心身ともに健康でいてくれること願うばかりです。そして将来、立派な花を咲かせてくれることを期待しています。卒業おめでとう。

新高専第1期生の卒業に向けて

卒業生に贈る言葉

機械知能システム工学科5年担任　田中　裕一

卒業おめでとうございます。

熊本高専となってからの新学科一期生で、同じ教室に旧学科の学生もいる混合クラスの皆さんが、卒業を迎えることができ、担任としてうれしく思います。

前例のないことが多く、たくさんの目立つイベントに何かと縁のあるクラスで、のんびりしたり、退屈したりする暇はありませんでした。シンガポール・ポリテクニクや香港ＩＶＥ短期留学生との交流、ほこ×たて出演、海外を含めたインターンシップ、シンガポール・台湾研修旅行、高専祭、海外語学研修、プロコン、デザコン・ＣＡＤコン、そしてロボコンと、次から次へといろんなイベントがありました。また、学内外のイベントにスタッフとして貢献してくれたり、個人的にコンテストに参加する学生もいたりして、感心することも度々あり、皆それぞれの成長を感じています。

進路についても従来よりもチャレンジする学生が多いように感じ、四・五年担任を初めて経験する私はやっとこさでしたが、最終的にはそれぞれの学生が納得いく道を選んでくれたのではないかと思っています。

これから新しい君たちの時代になるかと思いますが、クラスで見せたように個々に配慮をしながらも、それぞれが好きなことをやり、まとまる必要があれば一致団結する、そんなやり方があってもよいと思います。皆さんのご健康とご活躍を心より願っております。

前途を祝して

建築社会デザイン工学科5年担任　森山　学

建築社会デザイン工学科、土木建築工学科の卒業生諸君、卒業おめでとうございます。

上級生の担任は今回が初めてでしたが、チャイムが鳴っても立ち歩き、私語は大きく、教室は汚く、すぐにちょっかいを出してくるみなさんのクラスを受け持つことができ、大変楽しく担任を務めさせて頂きました。素直に受け入れる姿勢を持ちつつ、ひとりひとりが特別な個性と信念を抱き、迷い悩みながら、生きているそのそばに付き添うことができ、感謝するばかりです。

みなさんを何度も誇らしく思いました。ひとりひとりが多くのチャレンジに挑みました。プロジェクトを一緒に進める時には信頼することができました。５ＡＣに任せれば大丈夫、とも言われました。実際、定期試験前だろうが試験中だろうが、みなさんにはいろんなことをお願いしました。みなさんのキャパシティも随分広がったでしょう。

グングンと歩幅も大きく進むみなさんのために書く推薦書の多くは、紙面がもう少しあれば、もっと皆さんの魅力を伝えられるのに、と思いながら書きました。

これから新しい一歩を踏み出すわけですが、みなさんはきっと、この広い世界とうまく折り合いをつけ、自分の居場所を得、自分の世界を築きあげることでしょう。一見、道に迷ったようでも、その途中にこそ縁があり、知らず知らずに運命に導かれます。だから大丈夫です。

卒業によせて

生物化学システム工学科5年担任　大島　賢治

卒業を迎える皆さん、ご家族や関係の皆さんに支えられ、この日を迎えることができましたね。

おめでとうございます。

皆さんには個々に話を伺うと、それぞれの考えに感心させられた、という印象が残っています。立派な意志があり、高い意識を持って自己を向上しようとしている人。静かな人、ひたむきな姿も覚えています。いろいろな個性のある皆さん。

勉強は大変でしたか。やっと終わったという人もいるでしょう。この先は単純に楽がやってくると思わず、これからも今の問題を乗り越えることを楽しんでください。

その人にとって「本当に」必要なことは解決できるそうです。備わっている力を注ぎ、解決に向けた行為を真剣にできるので、ばたばた騒ぎ不安になる必要はないものと思います。

これまで他に幾つかのことを言いましたが、伝わらなくてもそれでよかったと今は思っています。よい本や人に出会い、人生が思いもよらぬ方向に動くのは面白いものです。仕事・学問・日常生活いろいろな面で。勉強やこれからの経験を楽しんでください。

丁寧に時間を使い、健康に暮らしてください。

いまの行為を喜び、花を咲かせるよう。

人生の選択

熊本キャンパス
電子情報システム工学専攻2年　濱洲　竜斗

中学校で自分の進路を決めてから7年が経とうとしています。当時の私は普通高校に進学するか高専に入学するかで迷っていました。結局は高専に入学したのですが、普通高校ではできないような勉強・体験を行うことができ、また、普通の大学では学べないようなことも学ぶことができました。高専という特殊な環境に身を置き、大学受験を経験することのないまま専攻科に入学し今に至ります。

5年間の高専生活を送り専攻科に入学した私ですが専攻科では研究が主となり、本科時代のようにクラスマッチや電波祭に参加することもなく、ただただ研究室と家を往復する生活でした。ですが、学会での発表や留学生との共同研究など様々な体験をすることができ、人生において貴重な時間を過ごすことができたと考えています。

私はついに今年の4月から企業で働くことになります。思えば本科時代、働きたくないからと推薦のある専攻科に入学し、今では勉強したくないからと就職しました。このように逃げてばっかりの人生ですが、その時その時では一生懸命に頑張っていたと思います。人生の選択としては自分の感情のままに選んでいたので、もしかすると失敗もあったのかもしれません。ですが、中学校の自分が高専を選択し、本科時代の私が専攻科を選択し、今の自分が就職を選択したのは正解だったと思います。これらの過程が自分にとっての糧となり今後の人生に良い意味で影響すると信じています。

最後に、自分を育ててくれた先生方、クラスメートの方々、本当にありがとうございました。また、7年間お世話になった電波高専ありがとう。

修了を迎えるにあたって

八代キャンパス
生産システム工学専攻2年　千原　大昂

高専の本科を卒業すると多くの同級生たちが就職し、社会人として新しい環境へ旅立っていきました。私は専攻科に進学する際、そんな同級生たちに負けないぐらい充実した二年間を送ろうと志しました。

専攻科の二年間を振り返ると、授業と研究とサッカーの日々でした。専攻科では自分の専門分野以外の授業もたくさんあります。特に実習ではそれぞれの科の学生が中心となり、互いに教えあいながら取り組みました。慣れない実習で約七十万円の機械を壊してみんなに迷惑をかけたこともありましたが、それも今ではいい思い出です。

研究では、木場先生に「うちの研究は成功すれば世界初だぞ！」という言葉で口説かれ超伝導体の薄膜に関する研究を選びました。世界初と聞いて浮かれていた私ですが、実際の研究は地道で根気のいる作業が多く、成果を出すことの難しさを実感しました。わからないことや失敗することも多かったけど、その度に助けて下さった先生、協力してくれた研究室のメンバーのお陰で乗り越えることが出来ました。

そして、私の専攻科生活を振り返るにあたって欠かせないのが昼休みのサッカーです。専攻科の一、二年生、教職員の方々と毎日一緒にフットサルコートで汗を流しました。普段、先生方とは授業で接する機会もありますが、職員の方々とはなかなか接する機会がありません。このサッカーを通して、高専ではたくさんの方々が働いており、その人たちの支えがあって自分の高専生活が成り立っていることを再認識しました。これからも、このサッカーは専攻科の良き伝統として後輩たちに受け継いでもらいたいです。

振り返ると専攻科の二年間はあっという間だった気がします。しかしそれは、それだけ二年間が充実していた証拠だと思います。最後に、就職する私にとって最後の学生生活が実り多きものになったのは偏に友人や教職員の方々、そして家族のおかげです。本当にありがとうございました。

新高専第1期生の卒業に向けて ～贈る言葉～

節目は飛躍のステージ

電子情報システム工学専攻長　三好　正純

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。卒業・修了は人生における節目の一つです。いま節目を迎え、入学からこれまでの間に大きく成長できた人、小さな成長にとどまった人、様々あるでしょう。しかし、節目に到達したとき大小の差はあれ着実に成長しています。そして、節目はさらなる飛躍へのステージです。次の節目に向かって自信をもって進んでください。

樹木に「ヤマボウシ」という木があります。この木の枝には一年間で勢いよく伸びる長枝とほとんど伸びない短枝とがあり、その成長量は枝にある節状の筋の間隔でわかります（写真）。十分な日照があるときは伸びる必要がないために成長が小さく、日照が不足するときは大きく伸びて成長します。

人生には大小さまざまな節目があります。大きな節目ほど到達が苦しいかもしれません。しかし、到達したときは大きく成長していることでしょう。これからまた新しい節目に向かう皆さんを応援しています。

修了生の皆さんへ

生産システム工学専攻長　木場　信一郎

平成２６年度卒業生・修了生のみなさん、おめでとうございます。　昨年は、円安傾向や経済政策により、輸出に強い企業の業績は上向きに推移との報道がありました. これを反映してか幾分か早めに就職活動は収束したと感じています。大学院進学を希望する諸君については、専攻の２割弱が受験しました。推薦入試制度も活用して、全員が希望する進学先に概ね入学を決めることができました.

さて、みなさんはこれから就職・進学と道は分かれますが、どの進路をとってもその先にはグローバル化の影響を強く感じることと思います。科学に根ざした高度な技術力に加えて、ものづくりのイノベーションを支え、担うことのできる国際性を備えた人材として、ご活躍を大いに期待しております。新しい活躍の場で、研鑽を積み上げて、大きく成長されたみなさんに、またお会いできることを楽しみにしております。

『知る喜び』を感じて!

熊本電波同窓会会長　松村　民雄

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。同窓会会長の松村です。私は高専を卒業して３５年、５５歳です。この歳になって２年前からボケ防止を理由に電験三種を受験し、やっと合格しました。モーターとか発電所とか苦手の内容ばかりでした。しかし、勉強していくうちに理解すると、こんなことも知らなかったのか『電気系エンジニアとして恥ずかしい』と思うと同時に、『知る喜びの感動』を覚えました。私の学生時代は科目が多く一夜漬けの連続で、試験が終わると忘れてしまい、理解できなかったこともありました。みなさんはどうでしたか？でも、会社生活では勉強しようと思えば時間だけは取れます。今になってコツコツと勉強し理解して楽しんでいます。卒業生のみなさんは就職、進学と進まれますが、『知る喜び』を感じて生きて行って欲しいと思います。そして、遊びや趣味も大いに励んでください。私のモットーは『遊びの中に仕事のアイデア有り!』です。みなさんも人生を楽しんで、エンジニアとして活躍してください!

我行精進　忍終不悔

八代高専同窓会　楷友会会長　亀田　英雄

卒業生・修了生の皆さん、この度は誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

日本は戦後七十年を迎え、成熟した社会となってきた一方、様々で複雑な問題も抱える時代となってきています。これからはこのような課題と向き合い、責任と自覚を持った一社会人としての活躍を期待します。

「行く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」

高倉健の座右の銘として紹介された言葉です。分かりやすくしますと、自分の人生は精一杯努力して、頑張ってどんなことがあっても悔いることがないようにしたい。となるのでしょうか。

上手に、器用に生きることも一つの生き方かもしれませんが、自分に偽ることなく、いろんなことのひとつひとつに憂えることなく、今できることをしっかりやれば良いと思います。

高専で培った技術者としての確かなものを今後の人生に活かして欲しい。そして社会に貢献して貰いたいと思います。

若者らしく、勇気をもって挑戦して下さい。期待しています。

進路速報（熊本キャンパス）

本年度の進路状況について

学生主事補（進路担当）　藤井　慶

本科卒業生並びに専攻科修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今年度本科では新設学科として初めての就職・進学活動となりましたが、12月末現在の就職内定率は本科・専攻科共に100％、進学内定率は本科98％・専攻科86％となっています。就職内定率は10月1日の時点でほぼ100％でしたが、厚生労働省によると同日付の大学での就職内定率は68％でした。これは卒業生・修了生一人一人の尽力の賜物です。そして沢山の教職員の助力の成果でもあります。また再編統合以前のOB・OGが培ってきた土壌に立脚していることも忘れてはなりません。4月からも新しい環境で一層研鑽し、新しい実績を積み上げて後輩を引っ張る存在になって欲しいと思います。

さて、今年度の進路状況の内訳について見て行きたいと思います。まず本科についてですが、就職と進学との志望者数の比は57：43でした。就職では昨年度に比べ製造業への就職が減り情報通信業が増えています。勤務地は昨年度とほぼ変わらず関東、九州の順でした。進学では昨年度に比べて大学数が減りましたが、学生数が4分の3に減ったことを勘案すると昨年度と同様の数と考えられます。半数強が専攻科へ進学する傾向も昨年度と概ね同様です。

次に専攻科を見ますと、就職志望：進学志望＝47：53であり、昨年度に比べて就職志望者が増えました。そのため就職では企業数が増えています。また地域別に見ると九州が最多となりました（昨年度までは関東が最多）。進学では昨年度も顕著だった九州大学大学院が更に増えました。

来年度は就職の採用選考開始が8月1日に後ろ倒しとなるため、以前と異なる状況になる可能性があります。在校生の皆さんは、自身の進路志望決定を後ろ倒しせず準備期間をより長く取ることで、志望先への切符を堅実に手に入れて下さい。

■表3　平成26年度本科卒業生就職先一覧

〈平成27年1月14日現在〉

企業等＼学科名	情報通信エレクトロニクス工学科	制御システム工学科	人間情報システム工学科	合計
CTCシステムマネジメント	1			1
GEヘルスケア・ジャパン			1	1
KDDIエンジニアリング	1			1
NHKメディアテクノロジー			1	1
NTTコムソリューションエンジニアリング	1			1
NTTコムテクノロジー			1	1
TDCソフトウェアエンジニアリング			1	1
YKK		1		1
旭化成		1		1
アドソル日進			1	1
アルファシステムズ		1		1
出光興産		1		1
エム・ソフト			1	1
大分キヤノン		1		1
オムロンフィールドエンジニアリング九州			1	1
開発電子技術	1			1
花王			1	1
キヤノン		1		1
キヤノンマーケティングジャパン	1			1
九州管区無線警察局	1			1
九州電力	1	1	1	3
熊本日日新聞社		1	1	2
システムニシツウ			1	1

■表1　平成26年度専攻科修了生就職先一覧

〈平成27年1月14日現在〉

就職先	地域		人数
SOLIZE Engineering	東京	関東	1
アルファシステムズ	神奈川	関東	1
鹿児島放送	鹿児島	九州	1
シャープビジネスコンピュータソフトウェア	東京	関東	1
ソフトサービス	福岡	九州	2
トヨタテクニカルディベロップメント	愛知	東海	1
ナトーハイシステム	熊本	九州	1
日本アルゴリズム	東京	関東	1
日本海洋掘削	東京	関東	1
日立情報通信エンジニアリング	東京	関東	1
ヒューマンテクノシステム	福岡	九州	1
富士ゼロックス福岡	福岡	九州	1
堀場エステック	熊本	九州	1
水資源機構福岡導水管理所	福岡	九州	1
三菱電機神戸製作所	兵庫	近畿	1
三菱電機特機システム	神奈川	関東	1
安川電機	福岡	九州	1
リコージャパン	福岡	九州	1

合計19名（内女子2名）

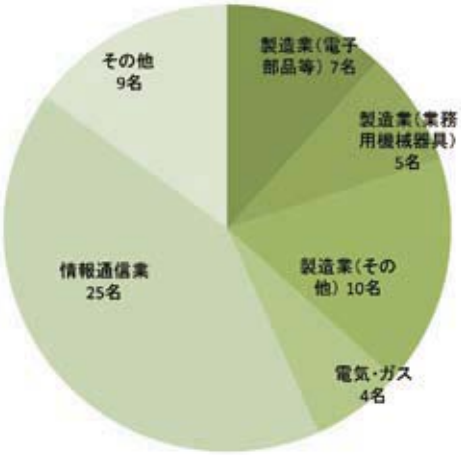
■表2　平成26年度専攻科修了生進学先一覧

〈平成27年1月14日現在〉

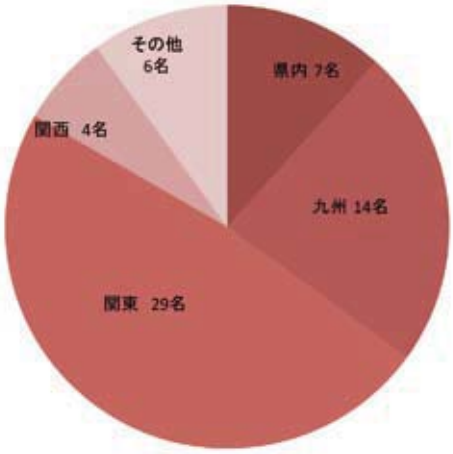
進学先	地域		人数
東京大学大学院	東京	関東	2
東京工業大学大学院	東京	関東	2
九州大学大学院	福岡	九州	12
九州工業大学大学院	福岡	九州	1
奈良先端科学技術大学院大学	奈良	近畿	1

合計18名（内女子1名）

■表4　本科卒業生就職者数内訳（業種別）



本科卒業生就職者数内訳（地域別）



■表5　平成26年度本科卒業生進学先一覧

〈平成27年1月14日現在〉

大学名等 ＼ 学科名	情報通信エレクトロニクス工学科	制御情報システム工学科	人間情報システム工学科	合計
豊橋技術科学大学	2	1		3
筑波大学			1	1
千葉大学		1		1
岡山大学			1	1
広島大学		1		1
九州大学		1		1
九州工業大学		1		1
大分大学	1			1
熊本大学	3	1		4
鹿児島大学	4		1	5
大学　計	**10**	**6**	**3**	**19**
熊本高専専攻科	14	3	8	25
合　　計	**24**	**9**	**11**	**44**

※情報通信エレクトロニクス工学科には、情報通信工学科の学生を含む

企業等 ＼ 学科名	情報通信エレクトロニクス工学科	制御情報システム工学科	人間情報システム工学科	合計
ジュピターテレコム			1	1
末松電子製作所	1			1
セイコーエプソン		1	1	2
ソフト九州			1	1
ダイキン工業	1			1
中外製薬工業		1		1
中部電力		1		1
ディスコ	1			1
東海旅客鉄道	1	1		2
東芝			1	1
東芝メディカルシステムズ			1	1
ニコン	1			1
西田鉄工			1	1
西日本旅客鉄道		1		1
日本ビジネスエンジニアリング			1	1
日本放送協会	1			1
日本郵政			1	1
白水社		1		1
日立国際八木ソリューションズ	1			1
日立情報通信エンジニアリング		1		1
ヒューマンテクノシステム			1	1
平田機工		1		1
ブリヂストンソフトウェア		1		1
堀場エステック	1			1
ホンダ技研工業		1		1
三浦工業	1			1
三菱電機ビルテクノサービス		1		1
村田機械		1		1
メタウォーター		1		1
メンバーズ			2	2
安川エンジニアリング		1		1
合　　計	**16**	**22**	**22**	**60**

※情報通信エレクトロニクス工学科には、情報通信工学科の学生を含む
※制御情報システム工学科には、電子制御工学科の学生を含む
※人間情報システム工学科には、情報工学科の学生を含む

進路速報（八代キャンパス）

進路のまとめ

キャリア開発室　道園　達也

近年の世界情勢はめまぐるしく変化し、わが国を取り巻く環境も激変しています。国内の経済状況にも、容易に解決できない問題が山積しています。グルーバル化する世界の中で、日本経済については明るい見通しが語られることもありますが、楽観視できないことは、近年の動向がはっきりと教えてくれるところです。

さて、今年度の就職状況について、求人数は前年度と同様で、積極採用に動く企業が増えつつあります。また、高専の卒業生・修了生に対する企業の評価は依然として高いこともうかがえました。様々な企業の経営者や人事担当者のお話を聞いても、大きな期待を持って頂いていることを感じます。

しかし、厳選採用の傾向は一段と明確になっています。企業は採用予定数を満たすことよりも、より強い意欲をもった能力の高い学生を採用することを優先しているように思われます。

今年度、就職活動に取り組んだ学生は書類作成、筆記試験、面接試験等を通して、自分がこれまでに取り組んできたこと、身につけてきた能力、そしてこれからどのように働いていくか、といったことをじっくり考える機会があったと思います。自らのキャリアについて、どのように考えるかというのは、就職に際して必要なことというだけではありません。卒業・修了後の長く続く皆さん自身の人生をいかに生きるかということに深く関わることです。自分の人生を生きるのは、自分しかいません。よりよい人生を生きるために、常に自分を向上させようとする意志を大切にして、卒業・修了後の日々を過ごしてほしいと思います。社会の一員として、国内外の諸問題を解決し、よりよい社会をつくるために尽力されることを祈念してやみません。

また、進学する方も、充実した勉学の日々を経て、それぞれの場所でご活躍されることを願っています。

在校生の皆さんは、先輩方に学んだことを活かしつつ、日々の課題に取り組み、じっくりと力を蓄えてほしいと思います。明るく、楽しく、元気よく過ごすことが、何より大切です。

■表2　平成26年度専攻科修了生進学先一覧

大学院名＼学科名	生産システム工学専攻（機械）	生産システム工学専攻（情報）	生産システム工学専攻（建築）	生産システム工学専攻（生物）	合計
九州工業大学大学院	1				1
九州大学大学院		1			1
熊本大学大学院	2				2
豊橋技術科学大学大学院	1				1
合　計	4	1	0	0	5

■表1　平成26年度専攻科修了生就職先一覧

企業等＼学科名	生産システム工学専攻（機械）	生産システム工学専攻（情報）	生産システム工学専攻（建築）	生産システム工学専攻（生物）	合計
旭化成株式会社		1			1
株式会社エイアンドティー		1			1
一般財団法人化学及血清療法研究所				1	1
株式会社加藤建設事務所			1		1
株式会社九州開発エンジニアリング			1		1
球磨村役場				1	1
株式会社クレスコ		1			1
サントリー酒類株式会社				1	1
全星薬品工業株式会社				1	1
株式会社竹中土木			1		1
中外製薬工業株式会社				1	1
株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング		1			1
株式会社中村電機		1			1
西日本高速道路エンジニアリング株式会社			1		1
株式会社日本港湾コンサルタント			1		1
株式会社日立パワーソリューションズ	1				1
株式会社平田機工	1				1
富士ゼロックス株式会社		1			1
マキノジェイ株式会社	1				1
三井化学株式会社				1	1
合　計	3	6	5	6	20

企業等名 ＼ 学科名	機械知能システム工学科（機械電気工学科・情報電子工学科）	建築社会デザイン工学科（土木建築工学科）	生物化学システム工学科	合計
東京ガス株式会社		1		1
同仁化学研究所			1	1
東燃ゼネラル石油株式会社	1		1	2
株式会社トノックス	1			1
株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング	1			1
西技工業株式会社		1		1
西日本高速道路株式会社		1		1
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社		1		1
ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル株式会社	1			1
株式会社日本コンピュータ開発	1			1
日本車輌製造株式会社	1			1
日本特殊陶業株式会社	2			2
日本放送協会		1		1
パナソニック株式会社アプライアンス社	1			1
株式会社日立プラントコンストラクション		1		1
ファナック株式会社	1			1
富士重工業株式会社	1			1
フジテック株式会社	1	1		2
株式会社藤永組		1		1
富士古河Ｅ＆Ｃ株式会社		2		2
株式会社牧野フライス製作所	1			1
三菱重工業株式会社	1			1
株式会社明治			1	1
メタウォーター株式会社	1			1
株式会社吉野工業所	1			1
ロイヤル株式会社			1	1
合　計	30	27	23	80

■表4　平成26年度本科卒業生進学先一覧

大学名等 ＼ 学科名	機械知能システム工学科（機械電気工学科・情報電子工学科）	建築社会デザイン工学科（土木建築工学科）	生物化学システム工学科	合計
九州工業大学			1	1
京都工芸繊維大学		1		1
熊本高専専攻科	10	6	4	20
熊本大学	2	2		4
東京農工大学			1	1
長岡技術科学大学		1	1	2
三重大学	1			1
合　計	13	10	7	30

■表3　平成26年度本科卒業生就職先一覧

企業等名 ＼ 学科名	機械知能システム工学科（機械電気工学科・情報電子工学科）	建築社会デザイン工学科（土木建築工学科）	生物化学システム工学科	合計
アイディホーム株式会社		1		1
明石機械工業株式会社	1			1
曙ブレーキ工業株式会社	1			1
旭化成株式会社	1			1
アステラスファーマテック株式会社			1	1
阿蘇製薬株式会社			1	1
株式会社アルファシステムズ	1			1
出光興産株式会社		1	1	2
NTT インフラネット株式会社		1		1
オークマ株式会社	1			1
大阪ガス株式会社		1		1
株式会社沖電気カスタマアドテック	1			1
花王株式会社			1	1
鹿島クレス株式会社		1		1
関西電力株式会社	1			1
肌美和株式会社			1	1
九州電力株式会社	1			1
株式会社キューハウ		1		1
協和発酵バイオ株式会社			1	1
極東石油工業合同会社			1	1
熊本県警察		1		1
鋼鈑工業株式会社	1			1
株式会社再春館製薬所			1	1
JNC 株式会社　水俣製造所		1	2	3
株式会社資生堂			1	1
昭和電工株式会社			2	2
ジョンソンコントロールズ株式会社		1		1
白鷺電気工業株式会社	1			1
新日鐵住金株式会社	1			1
スペースエージェンシー		1		1
株式会社住まい工房		1		1
住友化学株式会社	1		1	2
株式会社銭高組		1		1
第一三共プロファーマ株式会社			1	1
ダイキン工業株式会社			1	1
ダイダン株式会社		1		1
タカハタプレシジョンジャパン株式会社			1	1
中部電力株式会社	1			1
通信土木コンサルタント株式会社		1		1
DIC 株式会社			1	1
テバ製薬株式会社			1	1
電源開発株式会社		1		1
東亜建設工業株式会社		1		1
東亜石油株式会社	1			1
東海旅客鉄道株式会社		1		1

退任教職員からのメッセージ

退任するにあたって

熊本キャンパス　共通教育科　八田　茂樹

この三月で二十六年勤めた本校を退任することになった。山口の高校勤務を含めると、三十八年の教員生活だ。赴任した頃、一般科で夏休みの子供キャンプを企画し、教官室や体育館に寝泊まりして、カブトムシを捕ったり、木星を観察したり、バーベキューを楽しんだりした。学生会行事で「歩こう会」もあり菊池渓谷からの道や河内町で立ち番もしたことを思い出す。自分の校務では担任の他に、学生主事補として、部活動のマニュアル作成、全国大会の開催、学生相談室の二代目室長として始めたこと、人権委員会の活動、水泳部の引率、史跡探訪で熊本県内を回ったこと、共通教育科長の仕事などが思い浮かぶ。内地留学で恩師に出会い、現役学生と学んだ経験も貴重であった。

研究では、山口時代に始めた街道研究で、山陽道を東上、二十一世紀当初に京都まで到達、本校紀要や『熊本地理』に発表した。熊本地理学会の活動で県内各地を巡検した。地理教育では、地誌教育の観点から『新地理』等で報告した。二十一世紀に入るころ、東海道の踏査を京都から始め、静岡県中部に到達。授業のない休業中に歩いたが、フルタイム勤務終了までに江戸に到達しなかった。四月から頑張って江戸に着き、報告をと思う。初任地の学校ＯＢと、長崎街道も踏査。現在小倉(門司)から佐賀まで到達。街道研究で一冊、上梓が今の願望である。最後に勤務を支えていただいた教職員の皆様と学生諸君に感謝したい。本校が暖かい雰囲気を失わずに、発展することを祈念する。(写真は、平成二十六年十二月、金谷宿川越し場跡にて)。

熊本高専の国際交流に携わって

制御情報システム工学科　松本　勉

熊本高専の皆様、ご無沙汰しています。2年ほど前に高専機構本部の国際交流室長として異動しました、松本です。機構では、国際交流室長としての役割は1年で終了し、今年度は国際交流センター副センター長を拝命し、この3月に退職となりました。手続き上、3月末に1日だけ熊本高専へ復帰となります。そこで、退職する教員としてメッセージを求められました。簡単ではありますが、ご挨拶を兼ねて一言申し上げさせて頂きます。

熊本高専での思い出は有り過ぎて、とても与えられたスペースで書き尽くす事ができません。手前味噌にはなりますがＰＢＬやグローバル教育などの活動を振り返りますと、昨今の教育改革の動きと同じ方向であり、基本的には間違えてなかったと自負しています。特に、電子制御工学科で初めて海外研修旅行を企画し実施できたことは、貴重な経験になり、良き思いでとなっています。

この事を契機として、英語キャンプ、短期留学の受入れと派遣などのいろいろなプログラムに発展させて行く事が出来ました。皆様からの暖かいご支援で、価値ある業務に携わることができた事に感謝申し上げます。また、各事業において大きな事故もなく実施出来た事は、参加された学生の皆さん、ならびに後方で支えて頂いた関係教職員および保護者の皆様のご協力の賜物と感謝致します。この場を借りてお礼申し上げます。

在学生諸君へ：グローバル化への対応は海外に行く事ばかりでなく、国内で行う業務でも必要です。専門技術の基礎をしっかりと学び、グローバル化の時代に対応できるように精錬して下さい。

高専での仕事との出会いとメッセージ

生物化学システム工学科　木幡　進

私は創設三年目の八代高専・一般科(化学)教員として赴任し、新設の生物工学科へ転籍後、生物化学システム工学科一期生卒業の年に定年を迎えます。その間、「生物工学科増設では、教育課程の申請、一期生の受入れ、卒業生の進路先の開拓、生物棟の設計、設備機器の導入など、女子寮の開設では男女共生寮の構築、ＪＡＢＥＥ申請、法人化、高度化再編による新学科への改組」と、先の見えない多くの仕事と出会い、「前進しかない」との思いで仕事ができた点は貴重な経験であり、私の三十九年間の教員生活の大きな財産です。

さて、昨年のセウォル号事故で犠牲となった高校生の「将来」や「生」への無念さはいかほどであったしょうか・・・。学生の皆さん、「高専で学べる」ことは、すばらしいチャンスを手にしているということです。チャンスを大事に活かすよう、自分を鼓舞して、強く生きてください。「心」が変われば「態度」が変わり、「態度」が変われば「行動」が変わり、「行動」が変われば「習慣」が変わり、「習慣」が変われば「人格」が変わり・・というウイリアム・ジェームスの言葉はヒントになると思います。

いつも何かに追われているようなあわただしい日々でしたが、教育・研究・校務を振り返れば充実した楽しい日々でした。学生・教職員の多くのみなさまとの出会いとご協力のおかげと感謝しております。三十九年間大変お世話になりました。熊本高専が社会の時流を見据え、さらに進化するよう祈念して、結びとします

退任教職員からのメッセージ

退任にあたって

八代キャンパス　共通教育科　小原　康博

昭和五十一年に八代高専に着任してから、この三月まで退職後二年間の再雇用期間を含めまして三十九年間、勤めることができましたことは、学生・教職員関係各位の皆様のお陰であると深く感謝いたしております。

着任時は、原油高による第一次オイルショックで、長く続いた高度経済成長が終焉し、不況の最中でした。本校は、開校三年目で、校舎落成、そして次々と整備されていました。当時の学生には新しい学校を自分達が創るということで活気が漲っていたように思えます。そして、現在、奇しくも、原油安による逆オイルショックが産油国を脅かし、イスラム過激組織によるテロが頻発している。このような中、本校の学生諸君は恵まれた環境・施設で勉学できていることを自覚し、実践的・創造力に富む技術者を目指して努力して欲しい。

本校の学生は私の経験に比べて、大変、人懐っこいと感じています。教員室を訪ねてきては、友人の事、勉強の事、悩み事、こんなことまでと思うようなことまで、色々と話をしてくれました。これは私にとって、大変嬉しい事でしたし、私の疲れを癒してくれました。本当に有難く学生諸君には感謝しております。

最後になりましたが、学生・教職員の皆様には大変お世話になりました。皆様に支えられ三十九年間楽しく過ごすことができました。心から御礼申し上げますと共に、熊本高専の益々の発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます

退任にあたって

機械知能システム工学科　河﨑　功三

早いもので本校へ就職してから、すでに38年の月日が流れました。就職時、最上級学年は4年生でした。私も27才と若かったので学生との年齢差も小さく、学生とも良く遊びました。クラスマッチでは教職員チームで出場していました。そして、どうしたことか時々優勝してしまいました。1年1年と過ぎ保護者の年齢が年上から同年そして年下となり、今では皆さん若くはつらつとしているように見えます。その間、学生の教育以外にも仕事を通して地域の多くの方と接触する機会を得ました。高専の先生と言うだけで厚遇していただき、乾柿をいただいたこともありました。市内のビジネス関係のグループへの入会の便も図っていただき、八代出身者でない私ですが沢山の方々と懇意にしていただき、若いときより忘年会の数が多い状態で、退職後もすることがありそうです。また、自分の同窓会では見た目、若い部類に入ります。これは常に若い学生さんと接触し、新しい刺激があるせいで、常に社会変化の現状を生きている学生と、話題に変化が乏しい同世代からとは刺激の質が違うのです。学生諸君にはいい刺激をありがとう。感謝します。

四十年間の沢山の思い出ありがとう

機械知能システム工学科　福田　泉

昭和五十年四月に熊本高専八代キャンパス(旧八代高専)に赴任して以来、四十年が経ちました。

当時を振り返ってみると、とにかく、施設、設備はまだ十分に整っていない状態で、学校行事についてもこれといってルーチン化されたものは無く、一期生、二期生として八代高専という学校を自らの手で新たな伝統を作り上げようという気概を強く感じました。思い出に残る学校行事としては、新入生歓迎行事の阿蘇登山、破天荒に騒いだ体育祭、薫風かおる文化祭、きつかった竜峰登山、夜を徹して歩いた八龍寮の射干玉漫歩等、今も印象深い思い出です。

伝統といえば、ロボコン部の学生諸君が取り組んできたロボコンがあります。平成26年度、ロボコンでは全国大会で優勝、ロボコン大賞を受賞し、全国制覇した。おめでとう。永年の念願が達成され、喜ばしいかぎりです。ロボコンは、総合的な技術力が優秀でなければ達成できません。高度な技術力を伝統として継承発展させて、今後もいい成績を残してください。応援しております。

授業では、材料力学、塑性加工、科学技術史等を担当し、研究では、鋼等の基礎材料からマグネシウム合金等の新素材まで力学的性質について、卒研生と共に研究してきました。これらの研究成果は学生との共著等として幾多の国内外の学会に発表できました。卒研生達に深く感謝します。

最後に、学生諸君及び教職員の皆様から頂戴しましたご支援ご協力に深く感謝し、皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

退任教職員からのメッセージ

高専の思い出

建築社会デザイン工学科　大河内　康正

三十七年前に八代高専に赴任以来、長年勤務した熊本高専八代キャンパスを退職することになった。私が着任した年度は第一期生が四年生という八代高専の創成期であり、まさに本高専の発展とともに歩んできたという感じがする。

学校は一年一年、卒業生を社会に送り出し、新入生を迎えるというサイクルを繰り返す。そのたびに、出会いと別れを繰り返してきた。私の頭の中には、氷床コアのようにその時代の空気を閉じ込めて層状になっているかのようにその年その年語りつくせぬ思い出として記憶されている。学校の一年は、案外不連続なのだ。全てとは言えないが、素晴らしい学生との出会いなど楽しい思い出も多く、その時その時、目標としたことを熱中してやってきた。

私が教師の道を選んだのは、良く言えば、勉強が好きで、人と話をしたり接したりするのが好きだったからと言って良いと思う。さらに、世の中を良くしていくのだという思い、そのために教えることに意義を見出していたこともある。どうすれば、学生を主体的学びへと向かわせることができるのか、毎年懸命に考えてトライしてきたのだが、力及ばずであった。最後の本年度の授業が、図らずも自分にとって集大成かと思えば自嘲気味ながら愉快な気分になった。物事は、教師の思うようには行かない。

最後になりましたが、皆様の今後の活躍と発展を祈念しますとともに、私も、今後とも、地球上で起こる様々な出来事に謙虚に向き合い、思いをめぐらせて楽しんで行きたいと考えています。

何を、どのように教えるのか？学ぶのか？

建築社会デザイン工学科　磯田　節子

今年3月で高専の14年間が終了する。２００１年4月、公募により50歳で本校の教員となった。それまでの経歴はちょっと複雑であるが一言で言えば主婦である。結婚10年目夫の転勤で熊本へ、その間に母校熊大で博士を取得、再び東京へ、そして１９９５年3月で夫が建設省を辞め熊本に帰ってきた。公募で受かると思っていなかったので結果を聞いて慌てた。「何を、どのように教えるのか？」である。世田谷まちづくりセンターで住民参加型ワークショップに出会い、当センターの浅海さんから「地域との実践的な関わりを学生と一緒にやったらどうか？」とアドバイスを頂いた。ＡＣ科の先生方と一緒に日奈久で5年生の建築設計演習から手さぐりの中その取組を始めた。それがＡＣ科の「教室を飛び出し、社会を教室とする学び」に繋がる。日奈久や中心市街地、駅周辺と多くの方々の支援をいただき、学生と共に本当に多くのことを学ばせていただいた。富山高専との出会いでＰＢＬという私たちの取組みと同じような学びがあることを知り、デンマークオールボー大学でプロジェクト型ＰＢＬを学ぶ機会も頂いた。当大学では人々を幸せにする新しい技術開発に焦点を絞り、ＰＢＬはそのための学び方である。本年度デザコンが本校で開催され空間部門で最優秀賞、環境部門で優秀賞を頂いた。ロボコンも全国制覇、かれらの取組みこそプロジェクト型の学びであり、このプロジェクトを中心としたオールボー型の学び方（カリキュラム）が本校で実現できないだろうか？最後に学生諸君、教職員、八代をはじめ人吉や小川町の方々、八代市役所等行政の方々に心より感謝申し上げます。

平成 19 年 5 年生建築設計演習「日奈久サイン計画」現地で地域の方々に説明する学生

教職員退職者一覧

定年退職者

教授	八田　茂樹
教授	遠藤　厚志
教授	松本　勉
教授	木幡　進
教授	種村　公平
課長	小枝　義則
係長	宇野　嘉光

再雇用期間満了退職者

特任教授	神田　一伸
特任教授	小原　康博
特任教授	河﨑　功三
特任教授	福田　泉
特任教授	大河内康正
嘱託教授	磯田　節子
一般職員	山田　雅子

「新学生会長として」

熊本キャンパス　学生会　会長
情報通信エレクトロニクス工学科　4年　伊藤　宏志

私がこの学校に入学してはや四年の月日が経ちます。この四年間、様々な方面で私達をリードしてくださったのが今年の卒業生であるのは間違いありません。部活、勉学、学祭、それから日常生活。全てにおいて、我々にベストなアドバイスをくださり、後輩である私達の模範となってくださったのが先輩方でした。在校生代表として皆さんに感謝の意を伝えます。長い間お世話になりました。

さて、そんな先輩方から最上級生としての責任を引き継ぎ、四月から平成二十七年度がスタートします。

この一年が昨年より忙しい年度になることは間違いありません。校時が変わり、年間の大まかな日程も熊本と八代の両キャンパスで統一されます。新一年生が入学し、学校全体に新しい風が吹き込むことでしょう。そんな中で学生会は具体的に何をしていくのか。一人で考えていました。その際に友人に言われたことがあります。学生会は具体的に何をしているの？そう言われた時、これが学生会の課題だと思いました。我々の具体的な活動内容を多くの学生が知らないのです。そこで決めた今年の目標が「活動内容の発信」です。自ら動き、活動状況を見せていく、当たり前のことですが、その部分がこれまでの学生会には出来ていませんでした。この状況を大きく変えるには私自身が強い自覚を持ち、行動で示していくことが必要になります。毎日、朝から校門に立ち、挨拶を行う。会長となり、早速この一月から新しく始めたことです。小さなことかもしれませんが、これまで時間にルーズであった自分を戒め、自ら変わろうと意識しています。挨拶運動のように、学生会の活動を皆さんに見せていく。我々が先頭に立って何かを行うことで、学校全体が活気に溢れ、各方面で熊本高専が飛躍していくことを信じて一年間活動していきます。

そして私達が卒業するときには、今年の卒業生のように、下級生の皆さんに何かを残して卒業できる、そんな一年にしていきたいです。

会長としての一年間

八代キャンパス　学生会　会長
建築社会デザイン工学科　4年　田口雅智

年初めの役員研修会も先日終わり、いよいよ新学生会が始まるところです。一年前の私も、「学生会会長になるのだ」と言う責任を感じていました。それと共に、周りにいる役員達と学校行事を運営出来る事が、とても楽しみでいました。学生会長としての最初の仕事は、入学式で式辞を読むことでした。実は、中学生の頃に生徒会長をしていた事もあり、式辞用紙に思いを込めるのは人生で四度目です。春休みに入り式辞の作成に取り掛かり、先生に添削して頂きました。式辞が完成すると会場を意識して読む練習を何度もしました。本番では少しでも自分の気持ちが一年生に伝わればと思いながら読み切りました。改めて貴重な経験をさせてもらえているのだなと感じました。

十一月に行われた高専祭では、新しくスポンサーになって下さるお店を探したり、周辺の中学校や、お店などにポスターの掲載を依頼したりと走り回りました。運営する側になると、高専祭に沢山の人達に来て欲しいという気持ちが自然と強くなり、どこにポスターを掲載して貰えば沢山人が来てくれるかなと悩みました。高専祭実行委員の皆さんもそんな気持ちになったのではないのかなと思います。忙しい中、沢山の人達が高専祭のために時間を使って頑張ってくれました。そのおかげで最高の高専祭になりました。

一年間を通して今思う事は、会長に挑戦して良かったという事です。人の前で挨拶をしたり、行事の運営をしたりする事が出来た事。全く関わった事の無い先生方や他学科、他学年、他高専の人達と関わる事が出来た事。こうした経験から自分自身の考え方の幅を広くする事が出来ました。そして、分かっているつもりではいましたが、それ以上に周りの人達の協力や支援によって会長の役職が出来る事を改めて感じました。一年間会長として生活出来た事は私を成長させてくれました。本当にありがとうございました。

明和寮を卒業される先輩方へ

熊本キャンパス　明和寮女子寮長
人間情報システム工学科４年　上村　真凜

「荷物運ぶね！」威勢の良いその声と笑顔に救われたのを、今でも覚えています。

四年前、大きな荷物と不安を抱え、私は入寮日を迎えました。一人でやっていけるのかな、怖い先輩がいたらどうしよう・・・悪い想像ばかりが私を憂鬱な気分にさせていました。しかしそこで見たのは、一つ上の学年ながら荷物運びを一生懸命手伝ってくれる先輩の姿でした。笑顔で話しかけてくれる先輩に、それまでの不安なんて吹き飛んで、寮生活が楽しみになったのを覚えています。分からないことや困ったことがあったとき、いつも先輩方が助けてくれました。行事やイベントでは率先して行動し、みんなを引っ張ってくださいました。いつでも先頭にいる存在。そのイメージが強く、未だに卒業されるという実感が湧きません。きっと先輩方のいない寮や学校を見てやっと実感できるのだと思います。

思い返してみると、私は寮内で一番「出来ない子」でした。洗濯もできず、服もたためず。朝は起きられず、得意なのは夜更かしくらい。しかし後輩ができ、初めて教える立場になってからは、ひたすらに先輩方の背中を追ってきたように思います。先輩方はいつも憧れであり、追い求める理想像そのものでした。そうしているうちに私は寮長になり、いよいよ寮を引っ張る立場となりました。そんな今、改めて先輩方がいかに寮を支えてくださっていたのかを痛感する毎日です。悩むことも多いですが、寮のために奮闘されていた先輩方の姿を思い出しては、もっと頑張らなん！という気持ちになります。

進学される方、そして社会に巣立たれる方。明和寮を出て、新たな生活をスタートされることかと思います。給食が恋しくなるのと同様に、寮食が恋しくなることがあるかもしれません。目覚ましではなくチャイムで飛び起きることがあるかもしれません。明和寮での日々を胸に頑張ってください。

ありきたりな言葉ではありますが、先輩方のご活躍を心よりお祈りすると共に、いつかまたどこかでお会いできることを楽しみにしています。ご卒業おめでとうございます！

寮生会より

八代キャンパス　八龍寮寮長
建築社会デザイン工学科４年　原田　導護

こんにちは。八代キャンパス八龍寮新寮長の四年建築社会デザイン工学科原田導護です。私が寮長に就任して四か月ほど経ちまだまだ不慣れな部分もありますが、前寮長の中神さんのアドバイスや、副寮長の大江や他の寮役員のサポートを受けつつ寮を運営しています。八龍寮では、集団生活ならではの協調性、友人同士の人間関係や、先輩後輩の上下関係、先輩からの理不尽などいろいろなことが学べます。その中で最も重要なことは「挨拶」だと考えます。

なぜかというと、社会に出てからは人脈が大事になります。将来自分が困った時、助けてくれたり協力してくれる人がいたらとても助かります。この人脈をつくる第一歩が挨拶であるからです。また挨拶は「自分はこんな人間です」ということを短い時間で表現する手段でもあります。この挨拶が心のこもった気持ちのよい挨拶であると第一印象で好感を持ってもらえます。第一印象で好感を持ってもらえるとインターンシップや就職の面接の際にとても役立ちます。

このような理由を踏まえて寮では挨拶の指導を寮役員が下級生に行っています。理想としては上級生にも挨拶をしてほしいですが、現状できていないため今後解消していかなければならない課題の一つであると思います。

私の寮長としての責務は果たせているかわかりませんが、これからも寮務員の先生方や事務の方の協力のもと寮役員一丸となって寮運営に尽力していきたいです。

高専ロボコン全国大会参加報告

八代キャンパス　ロボコン部顧問　山下　徹

高専ロボコン全国大会が、平成26年11月23日(日)に東京両国国技館で行なわれ、八代キャンパスAチーム8名(出場メンバー：MI科5年水永悠介君、3年土黒聖斗君、2年田中圭一君、ピットクルー：MI科4年松下祐太君、3年澤田和輝君、野田晃司君、2年田川祐大君、満﨑雄大君)が参加しました。本校は、前々回の大会では準優勝、前回の大会ではベスト4と成績を残しており、本大会でも活躍が期待されていた中で、熊本県初の全国優勝、およびその年のテーマに最もふさわしいロボットに贈られるロボコン大賞のダブル受賞(特別賞の東京エレクトロンFE賞を含めるとトリプル受賞)を果たしました。

今回のテーマは「出前迅速」。お盆に積み上げられたソバのせいろをロボットが3つの障害物を乗り越えて運び、3分間で運んだ枚数を競います。チーム「本気(まじ)の宅配便」は、4重のせいろ安定化機構と全方位移動可能なホイール、エアシリンダーによる昇降機構を搭載したロボットで、地区大会では1試合31枚という当時の大会ベスト記録で本校の地区大会三連覇と全国大会へのチケットを手に入れました。

さて今回、文頭で紹介した通り全国大会優勝という最高の結果を得ましたが、これは地区大会から全国大会までの1か月がターニングポイントでした。というのは、地区大会から1週間後、和歌山高専によって地区大会ベスト記録が更新されたのです。強力なライバルの出現でチームの中に「現状では悲願の優勝が難しい」という危機感が芽生え、ロボットの発送直前まで課題の徹底分析と再設計が行なわれました。その結果、地区大会では限界と考えていた配送枚数を約1.5倍まで増加させるというブレイクスルーを成し遂げることができました。

そして全国大会、初戦の相手はなんと本校最注目の和歌山高専でした。両校とも評判通りの最高のパフォーマンスを見せ、会場は大いに盛り上がりました。結果的には24枚を2回運んだ本校が48枚 - 44枚と僅差で辛くも勝利できました(この記録は今年の大会での1位と2位の記録)。その後は、準々決勝(対小山高専)、準決勝(対大島商船高専)と順当に勝ち、決勝では旭川高専の2回で25枚を運ぶ作戦に対し、1回目に24枚を運ぶと2回目は20枚を確実に運びきり、44枚 - 12枚で優勝することができました。

今回の参加で大変印象深かったのは、試合後に全ての高専が善戦を讃えあう光景でした。勝負の世界にありながらもお互いの努力・技術を純朴に認め合う高専生の技術者精神は素晴らしく、顧問として感動させられました。さらに本校メンバーに対しては、各人がチームとしてすべきことを的確に把握し、自分の役割だけでなく他メンバーのサポートにも積極的に入る姿に心強さを感じました。なお、水永君は選手宣誓の大役も務めましたが、緊張の中でも落ち着いた立派な宣誓でした。

最後に、今回の活動を通じて学内外の方々から本当に多くのご支援を頂きました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。またロボコン部では、既に来年に向けた活動が始まっております。引き続きご支援の方どうぞ宜しくお願い申し上げます。

公式パンフに掲載のメンバー（いい笑顔です）

ISTS2014に参加して

熊本キャンパス
電子情報システム工学専攻1年　今井　勝

私は、11月19日から3日間、台湾の台北科技大学で開催された、国際シンポジウム(ISTS)に参加しました。このISTSは、国立高専機構と海外の交流協定校が共催し、国際的な雰囲気の場で高専学生に英語による研究成果を発表する機会を提供し、英語コミュニケーション能力の向上と国際感覚の涵養に貢献することを目的に実施されています。今年は、主に日本と台湾から約250名の学生が参加し、熊本高専からは私を含め8名が英語での研究発表を行いました。私はこのような大舞台での発表は初めてだったので、発表直前は緊張してしまいましたが、本番は満足のいく発表が出来ました。研究発表以外にも、JAXAの方の基調講演や少人数グループでの夜市散策、交流夕食会などがあり、台湾の学生や他高専の学生と交流できる機会がたくさんありました。

今回のISTSを通して、英語のコミュニケーション力向上への意欲が高まったこと、同年代で切磋琢磨しあえる新たな友人ができたことが大きな収穫になりました。最後に、台湾での夜市の活気、人々の優しさ、安くて美味しいローカルフードが忘れられません。来年のISTSはマレーシアで開催されるので、マレーシア料理も楽しみにしながら、勉強や研究に一生懸命取り組みたいです。

保健室だより

看護師（熊本キャンパス）　中西　博子

ご卒業おめでとうございます。

あっという間の学校生活だったと思います。これからは、社会に旅立つ人、進学する人、進路は様々だと思います。ここで学んだ考える力を基盤に技術者として、社会へはばたき、ご活躍を心よりお祈りしています。

自分の才能を発揮できるのも健康な体があってこそです。

高齢化社会の現在。１００歳以上の高齢者人口は、どれくらいの人数でしょうか？

平成26年９月に厚生労働省は、全国の１００歳以上の高齢者は５万８８２０人（男性　７５８６人、女性　５１２３４人）になったと発表しました。

健康な体は財産です。誰もが、元気で長生きであることを願っています。

ストレス社会に生き抜くためには、心と体の健康を保つ必要性があります。

自律神経は、天気や気温などの自然環境や人間関係の悩みや仕事のストレスなどに反応しています。それらに負けないように様々な生理現象をいつもベストな状態に保てるよう調整してくれています。

自律神経は、交感神経と副交感神経という正反対の働きをする２つの神経が役割分担をして交互に働くようになっています。

交感神経が働くのは、体を動かす活動的なときや興奮した時。交感神経が働くと細胞や臓器が興奮して緊張します。副交感神経が働くのは、体を休める時やリラックスした時。副交感神経が働くと細胞や臓器がリラックスします。副交感神経が働いている状態を「副交感神経が優位になる。」といいます。この状態が「心と体の健康」を保つために重要です。

ストレスがかかると脳の扁桃体が活発に反応して交感神経にスイッチが入り血流悪化、血圧上昇、免疫力の低下など起こります。腹式呼吸をすると、脳の扁桃体の活動が落ち着き副交感神経にスイッチが入ると血行改善、血圧低下、良く眠れるなどの効果があります。時間のある時に腹式呼吸を取り入れて健康効果を高めた生活を行うことをお勧めします。ストレス社会に打ち勝ち健康で元気にご活躍できるよう健康管理力を高める方法を積極的に生活に取り入れ、楽しい毎日を過ごしていかれますようお祈りしています。

看護師（八代キャンパス）　山下　智子

体温は健康のバロメーター

体温が高くなることに関しては「37℃以上あるから微熱」「病気かな？」と対応できる人が多いと思いますが、体温は低すぎてもいけません。「病気というほどではないけど、なんだか最近、体の調子がよくないなあ」と感じている人は、一度体温を測ってみましょう。

低体温による症状（ちょっとした体の不調も、体温が低いことが原因の場合があります）

- ●かぜなどの病気にかかりやすい
- ●体がだるい・目まい・吐き気
- ●頭痛・肩こり・腰痛

体温が下がるとどうなるの？

映画やドラマで「雪山で遭難する」場面がありますね。体は震え、顔は青白くなり、手足がかじかんで、やがて意識を失ってしまう・・・。

これらは冷たい外気にさらされて、体の中心部まで、35℃以下に体温が下がることで起きる「低体温症」の症状です。低体温症は風の強さや、その人の体調によって、気温がマイナスにならなくても発症することがあり、特別寒くなくても、長時間屋外に出る人（部活動の練習等）は注意したい病気です。

自分の平熱を知ろう

一般的に子供は比較的体温が高く、お年寄りは低いといわれますが、平熱は個人で違います。平熱は３６．５～37℃くらいが良いとされており、その理由は、新鮮な酸素や取り入れた栄養を、全身へ運ぶ血液の流れが良くなるためです。体温が低くなりすぎると、血液の流れが悪くなって、体調不良の原因になります。

体温を正確に測るには（脇で測る場合）

体温が低い人は、きちんとした測定ができない可能性もあります。

毎日同じ時間に同じ状態で測るのも正確な平熱を知るためのポイントです。

- ●食事前、安静時に測る。汗をかいている時は拭く。
- ●脇の下の中心に、体温計の先端が当たるように斜め下から差し込む。
- ●ピピッと音が鳴るまで脇をなるべく閉めて測る。

体温を上げるにはどうしたらいいの？

体温が下がる原因は、生活習慣にもあります。低体温気味の人は、体温を上げて病気に負けない体を作りましょう。

■「熊本高専生によるパソコン教室」を開催しました。(12/8～11)

地域住民の方を主な対象としたIT講習会「熊本高専生によるパソコン教室」を実施しました。ICT活用学習支援センターが主催して5回目になるこの講習会は、本校の専攻科生を講師として、夕方に熊本キャンパスにて4日間(計6時間)無料で実施されているものです。

今年はパソコン入門コース、文書作成初級コース、表計算初級コースの3コースが開講され、定員の60名の受講者が参加されました。各コースには受講者をサポートする30名の本科学生の補助員が参加していましたが、受講者の方から、親切だった、丁寧だったといった感想が聞かれました。

■「わいわい工作・実験フェスティバル2014」を開催しました。(11/16)

11/16(日)、八代キャンパスにおいて小中学生のためのものづくり科学体験教室「わいわい工作・実験フェスティバル2014」を開催しました。企画数32の実験・工作のテーマで、第一体育館および体育館前で実施しました。16日は午前中、キッズサッカーもグラウンドで開催されており、サッカーが終わった午後からフェスティバルに参加する子ども達や、引率の保護者の方も結構おられたようです。当日は、まずまずの天気でしたが、約400名の参加者があり、子どもたちは、いくつものブースを周りいろいろなものづくりや実験を1日楽しんでいました。

■本校専攻科生がビジネスプランコンテストにおいて入賞しました。(12/19)

第14回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト(主催：大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト委員会、後援：九州経済産業局、福岡市、九州経済連合会、日刊工業新聞社ほか)の最終審査が12月19日、福岡市役所講堂で開催され、本校専攻科1年の神田卓也君、平田成君、山田大志君のチームが九州経済連合会長賞を受賞しました。

プラン名：「高電圧発生回路による衝撃波を用いた食品加工のビジネス - 軟化調理を簡単に -」

九州山口地区の大学、大学院、高専52件の提案の中から、1次審査、2次審査を経て第3位に輝く賞です。昨年の徳永真二君に続いての受賞です。

また、熊本県主催の「学生発ベンチャー・夢挑戦ビジネス大賞2014 in くまもと」の最終審査が12月18日にKKRホテルくまもとで開催され、本校専攻科1年の学生で構成された3チームが入賞しました。

優秀賞(1件):

プラン名
「ペッパー.dat ～ 故障データベース(あなたの故障にジャストミート!)」
(田中亨君、後藤修平君、八木智徳君)

奨励賞(2件):

プラン名
「提供型高齢者コミュニケーション支援サイト」
(永井晃人君、前田亮君、渡辺龍二君、若田健眞君、黒田裕貴君)

プラン名
「現実をそのまま仮想化した仮想空間を用いた、全てのユーザーへの疑似旅行の提供」
(江口凌也君、橋本光陽君)

熊本高専に関する最新のニュースは、熊本高専の公式Webサイト
http://www.kumamoto-nct.ac.jp/ をご覧ください。

行事予定 Event Calendar

4月▸9月

熊本キャンパス

4 April 月

5(日)	入学式
6(月)	始業式
7(火)	授業開始(本科・専攻科)
8(水)	対面式
23(木)～24(金)	新入生合宿研修
25(土)	保護者懇談会・奨学後援会総会・寮生保護者会
30(木)～5/1(金)	春季クラスマッチ

5 May 月

8(金)	専攻科推薦選抜試験(電子情報システム工学専攻)
23(土)	専攻科学力選抜試験(電子情報システム工学専攻)
29(金)～31(日)	高校総体

6 June 月

9(火)～15(月)	前期中間試験

7 July 月

17(金)～19(日)	九州沖縄地区高専体育大会
21(火)～27(月)	前期定期試験(専攻科)
22(水)	編入学試験(本科)
27(月)～31(金)	前期定期試験(本科)

8 August 月

8(土)	夏季オープンキャンパス
13(木)～9/23(水)	夏季休業
15(土)～30(日)	全国高専体育大会

9 September 月

24(木)	後期授業開始

八代キャンパス

4 April 月

5(日)	入学式
6(月)	始業式・対面式・春季文化発表会
7(火)	授業開始(本科・専攻科)
10(金)	1年生県下一斉テスト
16(木)～17(金)	1年生宿泊研修
25(土)	保護者懇談会・後援会総会・寮生保護者懇談会

5 May 月

15(金)	専攻科推薦選抜試験(生産システム工学専攻)
19(火)	学生総会・球技大会
29(金)～31(日)	高校総体

6 June 月

5(金)～11(木)	前期中間試験
19(金)	専攻科学力選抜試験(生産システム工学専攻)

7 July 月

17(金)～19(日)	九州沖縄地区高専体育大会
24(金)	編入学試験(本科)
27(月)～31(金)	前期定期試験(本科5年)
29(水)～8/4(火)	前期定期試験(本科1～4年・専攻科)

8 August 月

12(水)～9/23(水)	夏季休業
15(土)～30(日)	全国高専体育大会

9 September 月

4(金)～6(日)	保護者懇談会
24(木)	後期授業開始

編集後記

今年度もいよいよ残り少なくなりました。毎年のことですが、卒業というのは見送る側にとっては切ないものです。しかし、卒業生にとっては晴れの門出。卒業生皆さんのご活躍を願っております。今年はついに新高専1期生の卒業を迎えることとなります。新高専1期生の卒業は新高専完成を意味しております。我々も新年度に向けて決意を新たに頑張りたいと思います。今後とも皆様方に熊本高専の今を伝えられる「高専だより」を作成していきます。

革新する技術、創造する未来 ～夢へ翔る熊本高専～
熊本高等専門学校
National Institute of Technology, Kumamoto College
独立行政法人 国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校
熊本キャンパス
〒861-1102 熊本県合志市須屋 2659-2 TEL 096-242-2121
八代キャンパス
〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627 TEL 0965-53-1211
http://www.kumamoto-nct.ac.jp/